

VB-12Z・VB-22Z

テントは野営(屋外での宿泊)で快適に睡眠をとれることを目的として設計されています。設計の前提になっているのは以下のとおりです。

使用人数

VB-12Zは1人用、VB-22Zは2人用として設計されています。
それを上回る人数で使用すると、相対的に通気量が不足し窒息することがあります。

天候

- ・強風 風速が15m/秒を超えると破損することがあります。
- ・豪雨 VB-12Z・VB-22Zはテント本体に前室があるため、別売のVL・VSシリーズのフライシートをセットすることはできません。別売のグランドシートについてはVL・VSと共通仕様ですので、豪雨対策及び、テント本体のグランド部の汚れ防止・保護のために使用をお奨めします。
- ・雪 VB-12Z・VB-22Zは防水・透湿・通気性に優れたシングルウォールテントですので雪山においても単体使用が可能です。しかし通常のVBシリーズとは違い、前室が付属されているため、別売の外張の使用を考えた構造にはなっていません。よって、外張使用が前提の豪雪が予想される山岳での使用には適しません。
- ・耐用年数 合成樹脂や合成繊維は保管状況により劣化の進行具合に差が出ます。シーズンオフには各部点検をして、問題があれば販売店に相談する必要があります。金属部品は時効硬化します。通常の使用状況での最大耐用年数は20年ほどです。

テント設営

天場で設営することを基本に設計しています。

- ・地面：テントを設営する地面としては、水平で平坦な所が適しています。凹凸のある所は寝心地が悪いだけでなく、設計したテントが設計通りの形にならないことがあります。
- ・地形：雨水の通り道になる所(谷状の地形)、雨水がたまる所(くぼみ地)に設営すると、テント内に浸水します。また、風の弱い所を選ぶことも大切です。日差しが強すぎる所では、日中にテント内が高温になります。(夏期にはしばしば70℃を超えます)

テント内での火器使用

小型の火器を使用しても通気量が不足することはありませんが、たいへん危険です。通気の確保、火災時の避難経路などをあらかじめ確認する必要があります。また、火器の取り扱い説明書をよく読み、注意事項をしっかりと認識し厳守します。

◆テント各部分の説明

テント本体・・・四隅を地面に固定して使用します。また、柱(ポール)を固定する仕組みを持っています。(壁と土台)

柱・・・・・・・・・・ポールとも呼びます。ゴムヒモの繋ぎ通りに組み立てます。テント本体に取り付けて使用します。

バグ・・・・・・・・・・テントや張り綱を地面に固定する杭です。

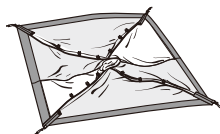
張り綱・・・・・・・・・・主に、風の強いときにテントを安定させるために使用します。

◆テント使用中に起きた過去の事故例

- *崖の直下に設営、長雨で崖崩れが発生。また、落石や野生動物が落下してくる危険もあります。
- *河原で設営、上流部の集中豪雨で急激に水増し、野営中の人々がテントごと流されました。また、海岸や湖畔(特に人造湖)なども水位の変化により浸水した事例があります。
- *開けた高地設営、落雷が直撃しました。
- *高圧線の直下で設営中、組み立て中の柱(ポール)が高圧線に接触し感電。
- *温泉地のくぼ地に設営、夜間に無風になり、毒ガス中毒が発生しました。
- *テント内で火器を使用、通気量不足により窒息。また、火災の発生事例もあります。

収納袋の中身を見てみよう

テント本体



バグ9本
(収納袋付)



本体ポール
(収納袋付)
張り綱4本

